英語教師としての専門性を高めるための省察を中心とした対話型模擬授業の実践

Practice of Interactive Mock Classes with a Focus on Reflection for Professional Development as an English Teacher

及川新，尾上怜，野木原七海
指導教員　佐古孝義

明星大学　教育学部　教育学科　佐古孝義研究室

キーワード： 省察，対話型模擬授業，４技能５領域，ALACT モデル，学習指導案

１．研究の背景

英語教員を目指すにあたり，私たちは主に「英語力」と「授業力」に不安を感じている。ここでいう「英語力」とは，中高生に英語で授業ができる力，英語を多面的に捉え立体的に授業の中で展開する力のことである。英語には「聞く・読む・話す（やり取り／発表）・書く」の 4 技能 5 領域があり，それぞれについて生徒を評価できるだけの力が求められる。この中でも，特に「話す」ことについては，教員として評価をする以上、正しい発音で話す力や，生徒の誤った表現を正しい表現に訂正できる（リキャスト）力などについて不安を持っている。

また「授業力」とは，扱う単元や授業の進め方をあらかじめ記す学習指導案の書き方をはじめ，授業をする以前の部分と，実際に授業の中で教科書やその他の教材などを生徒達の学力と授業の目的と照らし合わせて最適化できる力のことを指す。特に現在では生徒 1 人 1 台タブレット端末など，ICT 機器について，授業における有用な使い方を提案できるかどうかも私たちが不安に感じている授業力の 1 つである。これら 2 つを課題と感じる背景には，授業の中での実践経験の少なさ，具体的には，英語を話す機会や個人で行う模擬授業の経験が少なかったことであるが，コロナ禍での Zoom でのオンライン授業なども原因の 1 つと考えることができる。

２．取り組むべき課題

前項で述べた「英語力」と「授業力」という二つの不安について，その克服のために対話型模擬授業で具体的に取り組むべき課題は，以下の 2 点である。

1）教員による指示（Classroom English）や教員―生徒間でのインタラクションなどの場面におけるリキャストなどを含め，積極的に英語を使用する

2）生徒観をよく考慮し，教員／生徒による ICT の利用を視野に入れ，かつ機器のトラブルなどに臨機応変に対応できる複線型の学習指導案を一人で作成する

並行して各自の英語知識（文法，発音面を中心に）を確かなものにすること，正しい発音ができるような練習，研究会への参加，ICT を含めて新しい教授法を貪欲に吸収することなど教員側の努力と研鑽は欠かせない。

３．実践方法

英語教師としての専門性を高めるため，F.コルトハーヘン（2010）による ALACT モデルをベースとして，省察中心の対話型模擬授業を行う。

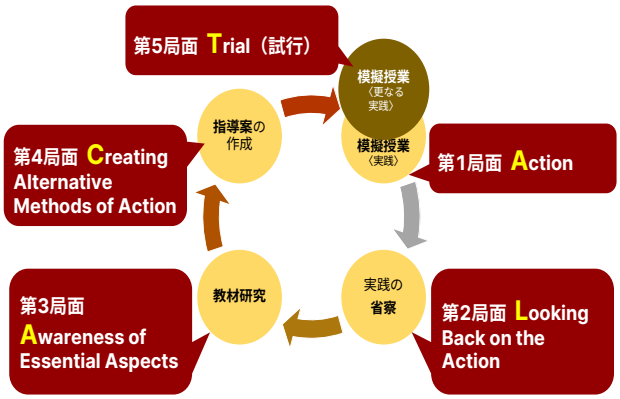

図 1　省察の ALACT モデル（コルトハーヘン）一部改変

コルトハーヘンは，学習者の理想的な行為と省察のプロセスを次の 5 つの局面に分けている。

第 1 局面 **A**ction

第 2 局面 **L**ooking Back on the Action

第 3 局面 **A**wareness of Essential Aspects

第 4 局面 **C**reating Alternative Methods of Action

第 5 局面 **T**rial

局面ごとの具体的実践方法は以下の通りである。

- □ 第 1 局面では，模擬授業という具体的な経験を通し，学びの課題を洗い出す。
- □ 第 2 局面では，深い気づきを得るために <Do> <Think> <Feel> <Want> の問いを中心に，授業者と生徒役の学生が協働して省察を行う。
- □ 第 3 局面では，第 2 局面で見出された違和感の背景にあった事象の本質を深く探り，課題感を持って教科書・教材を見つめ直す。
- □ 第 4 局面では，他の指導法はないか模索しながら指導案を練り直す。
- □ 第 5 局面では，第 4 局面までから得られた知見をもとに，再び模擬授業を行い，新たなアプローチを試みる。

このように省察中心の模擬授業を繰り返し，現代の英語教育における英語教師としての専門性を高める学習に取り組む。

4．実践の様子

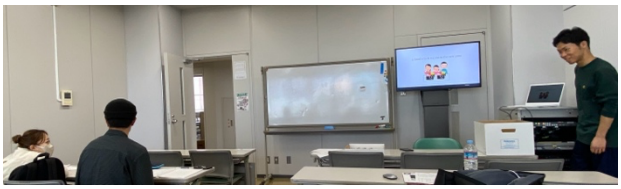

図 2　授業の様子

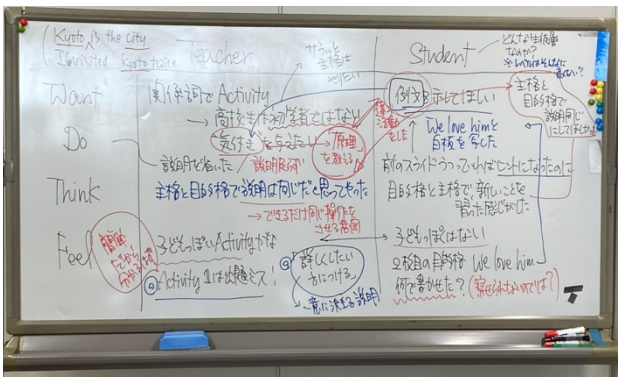

図 3　省察の記録

5．今後の展望

対話型模擬授業実践の中で，私たちは各自の卒業論文のテーマを発掘し考察を深めるため，それぞれの関心に従って省察を行う。具体的には，①ICT を利用した授業作り，②生徒のモチベーションを高めるための教員の働きかけ，③教室英語で使い，教えるための口語表現，などである。

参考文献

奥村好美，伊藤博之，松本伸示，溝邊和成，宮田佳緒里(2020)「より深い省察を促す模擬授業検討会のあり方に関する一検討—F. コルトハーヘンの ALACT モデルを参照して—」『兵庫教育大学研究紀要』57, 85-94.

コルトハーヘン,F.（編著），武田信子（監訳）(2010)『教師教育学—理論と実践をつなぐリアリスティック・アプローチ』学文社.

渡辺貴裕，岩瀬直樹(2017)「より深い省察の促進を目指す対話型模擬授業検討会を軸とした教師教育の取り組み」『日本教師教育学会年報』26, 136-146.

渡辺貴裕(2019)『小学校の模擬授業とリフレクションで学ぶ授業づくりの考え方』くろしお出版.